



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4604		
科目名	ゼミナールⅣ		
担当教員	田上 雄大		
対象学年	4年	開講学期	後期
曜日・時限	月 5		
講義室	1210	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E〔学識・専門技能〕 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP7-L〔協働力・牽引力〕 集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 DP5-J〔創造的挑戦力・達成力〕 コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結び付けることができる。 DP6-K〔表現力・対話力〕 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 DP8-M〔省察力〕 知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 DP4-F〔探究力・課題解決力〕 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP2-B〔自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢〕 自己の存在意義を知り、自らを高め続けようと努力することができる。 DP7-C〔他者理解・倫理観・公共心〕 人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。 DP4-I〔理解力・分析力〕 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E1 学識と専門技能（20%） L1 チームワーク（20%） J1 継続的学習基盤（15%） K1 ライティング・コミュニケーション（10%） M1 統合的・応用的学修（10%） F2 課題解決（10%） B1 自己啓発（5%） C1 倫理的思考・社会認識（5%） I1 理解・分析と読解（5%）		
教員の実務経験	なし		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット：能力開発の目標ステージと対応 3 発展期～ 4 完成期		

科目概要・キーワード	危機管理とその基礎となる法学に関する専門的な研究活動を実践するために、必要な研究の手法を学び、学生自らが個人のテーマを設定し、研究論文を執筆するための指導を行います。学生自らが危機管理に関する問題を発見し、仮説を構築し、自力で仮説を検証することにより、問題の解決につなげ、危機管理能力を養います。ここでは、問題意識を確立し、卒業論文につながる個人研究のテーマを決定すると同時に、先行研究を収集して専門領域に関する知識を獲得します。 授業形態は（演習）形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。（キーワード）危機管理、法学、研究テーマの構築、仮説の検証	
授業の趣旨	■副題 現代における情報の取扱い ■授業の目的 危機管理と法学、特に情報に関する研究テーマの探求、研究手法の会得、研究成果の発表の各過程を通じて、①学識・専門技能、②協働力・牽引力、③状況把握力・判断力、④表現力・対話力、⑤省察力の各コンピテンスの開発を行うことを目的とします。 ■授業のポイント 将来のキャリアを見据えた学びにおいて、①自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢、②倫理観と公共心、③理解力・分析力の各観点について自覚を持ちましょう。	
総合到達目標	■旺盛な関心をもって危機管理学及びそれを支える法学における重要問題を探求し、これを科学的な手法によって分析することができる。 ・研究方法や研究論文の進め方について理解できる。（第1回） ・問題点や論点を探究し、自らの見解を持つことができる（第2回～第8回） ・問題意識を持ち、探究することができる（第2回～第8回） ■論理的に解釈して知見を見出すとともに、その成果を卒業論文にまとめ、適切に表現することができる。 ・自らの見解を証明するための文献や資料収集することができる（第9回～第15回） ・文献の読み方や資料の解釈などを修得する（第9回～第15回）	
成績評価方法	■成績評価手段 実技・パフォーマンス各自2回（50%）：適用ルーブリック：E1・G1・K1・M1・B1・C1・I1 （評価方法）さまざまな社会上の情報にかかわる問題を認識し、そのなかから自らの問題意識をもち、その問題の構造を理解し、状況を把握できているか、その問題に対して卒論に向けて目的を持ち、いかに内容を展開させていくか、独自の視点を持ったうえで、他者との議論を通じて自らの見解を確立できているか評価します。 （フィードバック）授業時間内に解説を実施し、テーマの適切性、仮説の妥当性について講評します。 ■授業参加度15回（50%）：適用ルーブリック：E1・L1・G1・K1・M1・B1・C1・I1 （評価方法）他者の研究内容を通じてまず自らの知識を取り出し、活用しているか、またその研究の結論が妥当であるかどうか、対立点の発見や解消、最適化を議論を通じてなされているか、評価します。他者の研究内容は自分には関係ないという姿勢ではなく、全員で研究内容について検討し、議論しているか、評価します。 （フィードバック）各自の意見が妥当なものか、議論が適切になされているか、参加しているかの態度について講評します。	
履修条件	特になし	
履修上の注意点	特になし	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス（全体のテーマ、授業の進め方、成績評価の仕方等の説明）、イントロダクション ②授業概要 （ガイダンス）授業概要、授業の目的と進め方、到達目標、成績評価方法について説明を行います。 （イントロダクション）研究方法（E1・J1）、プレゼンの手法（K1・M1）、議論の方法（L1・B1） ③予習（120分） ゼミナールⅠで設定した研究テーマと文献について確認し、ゼミナールⅡで進めた研究内容を確認し、ゼミナールⅢで示した卒業論文の骨格を確認しておく。 ④復習（120分） ゼミナールⅣの概要と到達目標を確認し、何を習得すべきなのか確認する。

2	①授業テーマ 論文執筆に向けて ②授業概要 ゼミナールⅠ～Ⅲまでに構築したテーマの概要、目次、各章のポイント、学説や判例などを文章にし、論文執筆の準備に入ります。そこで、まずタイトルのつけ方、書式、文章表現、引用符のつけ方、引用文献の表記など論文執筆の基本となることを指導します（E1・I1）。 ③予習（120分） ゼミナールⅠで設定した研究テーマと文献について確認し、ゼミナールⅡで進めた研究内容を確認し、ゼミナールⅢで示した卒業論文の骨格を確認しておく。 ④復習（120分） ゼミナールⅣの概要と到達目標を確認し、何を習得すべきなのか確認する。
3	①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表① ②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表をしてもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習（120分） 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。 ④復習（120分） 他者との議論を通じて、問題点を修正する。
4	①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表② ②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表をしてもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習（120分） 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。 ④復習（120分） 他者との議論を通じて、問題点を修正する。
5	①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表③ ②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表をしてもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習（120分） 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。 ④復習（120分） 他者との議論を通じて、問題点を修正する。
6	①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表④ ②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表をもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習（120分） 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。

	④復習（120分） 他者との議論を通じて、問題点を修正する。
7	①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表⑤ ②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表をしてもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習（120分） 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。 ④復習（120分） 他者との議論を通じて、問題点を修正する。
8	①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表⑥ ②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表をしてもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習（120分） 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。 ④復習（120分） 他者との議論を通じて、問題点を修正する。
9	①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表⑦ ②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表をもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習（120分） 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。 ④復習（120分） 他者との議論を通じて、問題点を修正する。
10	①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表⑧ ②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表をもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習（120分） 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。 ④復習（120分） 他者との議論を通じて、問題点を修正する。
11	①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表⑨ ②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表をもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習（120分）

	卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。 ④復習（120分） 他者との議論を通じて、問題点を修正する。
12	①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表⑩ ②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表をしてもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習（120分） 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。 ④復習（120分） 他者との議論を通じて、問題点を修正する。
13	①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表⑪ ②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表をもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習（120分） 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。 ④復習（120分） 他者との議論を通じて、問題点を修正する。
14	①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表⑫ ②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表をもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。 ③予習（120分） 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。 ④復習（120分） 他者との議論を通じて、問題点を修正する。
15	①授業テーマ 卒業論文の完成と提出 ②授業概要 ゼミナールⅠから始めた卒業論文の作成、執筆活動について各自で確認し、提出してもらいます（E1・F1・G1・K1・B1・L1・C1・I1・M1）。 ③予習（120分） 自ら執筆した卒業論文の内容を読み返し、誤字脱字などのを確認する。 ④復習（120分） ゼミナールⅠ～Ⅳを通じて構築してきた卒業論文の作成工程をもう一度確認し、論理構成、論理的文章を書き、資料を検索し精査してきたことを振り返る。
関連科目	ゼミナールⅠ（RMGT4601）、ゼミナールⅡ（RMGT4602）、ゼミナールⅢ（RMGT4603）、危機管理基礎演習Ⅰ（RMGT2601）
教科書	特になし
参考書・参考URL	必要に応じて紹介する。
連絡先・オフィスアワー	開講時に告知します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント20%、パブリックセキュリティ25%、グローバルセキュリティ25%、情報

セキュリティ30%
■危機管理学と法学とのバランス
危機管理学30%、法学70%



Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.